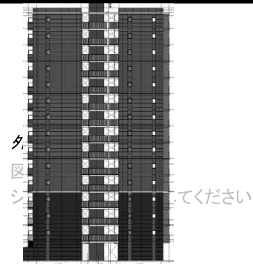


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版) 4. 建築物環境総合性能評価システム(2019年版) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレサンスロジィ美三丁目(303)新築工事	階数	地上15F
建設地	名古屋市東区美三丁目303番2、美三地区画 整理事業16ブロック1-1番	構造	RC造
用途地域	商業地域、近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2022年10月23日
敷地面積	517 m ²	作成者	
建築面積	147 m ²	確認日	2022年10月24日
延床面積	3,322 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE0.8 ★★★★★

☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 87%
③上記+②以外の 87%
④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 ・室内環境、サービス性能に配慮している。 ・敷地内外環境に配慮している。 ・エネルギー、資源マテリアルの確保に努めている。		その他 ・特に無し。
Q1 室内環境 ・建物遮音性能に配慮している。 ・専有部のクリア対策に努めている。 ・共用部の照明制御に配慮している。 ・専有部の自然換気性能の確保に努めている。	Q2 サービス性能 ・防汚性の高い建材を採用している。 ・耐用年数の長い、部品材の採用に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) ・緑地、中木を設置している。
LR1 エネルギー ・かしこい住まい方ガイドによる、運用管理体制への取り組みを行う。	LR2 資源・マテリアル ・自動水栓に加え、節水型便器の採用等、節水性能への配慮。 ・リサイクル材の活用にも努めている。 ・有害物質を含まない防水工のプライマーを採用している。 ・ノンフロン断熱材を採用し、フロンハロンの回収に努めている。	LR3 敷地外環境 ・チェックリストの一部を満たす、広告物照明無し等、光害の抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)プレサンスロジェ葵三丁目(303)新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.2



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0.2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。